

一貫したリテラシー教育実践のために

点から線への学修支援

5班

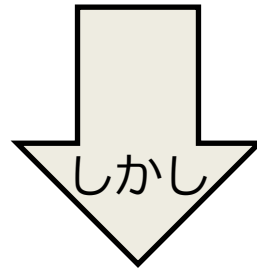
山本 佳奈	小松 浩二
長野 仁美	藤本 茶千
有馬 良一	瀧脇 有姫
原田 泰江	

- ・ 1万人規模の総合大学
- ・ 対象は2017年4月入学の学部学生とする
- ・ 全新入生を対象とした初年次セミナーはすでに実施している
- ・ オーダーメイドガイダンスを毎年依頼してくる教員は一部に存在する
- ・ 図書館にはリテラシー教育担当の職員がいる



現状の問題点

初年次セミナーは全学生を対象に行われている



卒業論文執筆時/卒業時における
学生間の情報リテラシー能力の格差が大きい



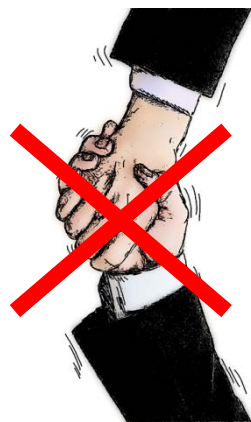
原因

- 図書館主催のガイダンス
⇒ 学生の意欲による格差
- 授業中の情報リテラシー教育
⇒ 担当教員の意向による格差



原因

図書館主催ガイダンス



教員の行う講義

現状の問題点



図書館の
使い方
ガイダンス

論文の
探し方
ガイダンス

図書館の
使い方
ガイダンス

CiNiiの
使い方
ガイダンス

OPAC
ガイダンス

執筆マナー
ガイダンス

CiNiiの
使い方
ガイダンス

新入生向け
ガイダンス



提案

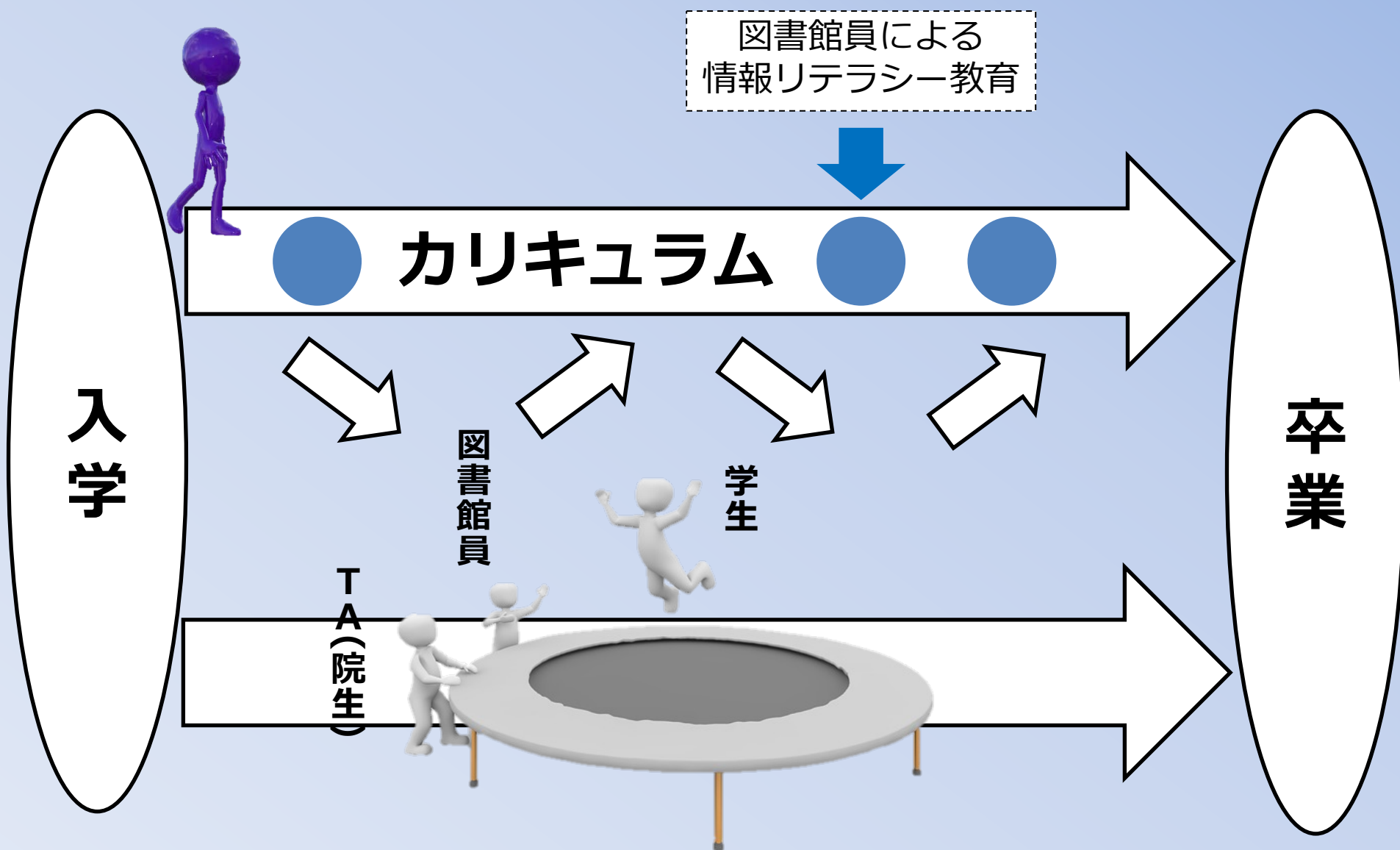
教員との連携により、
入学から卒業までの流れに沿った
情報リテラシー教育を実現

担当教員の性向による
学生間の情報リテラシー知識のムラをなくす

院生をTAとして雇用して、
図書館員と一緒に**“学修支援サポートデスク”**を設置し、
上記の教育の補填・深化を受け皿として用意



提案



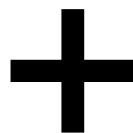
何をクリアしていけばいいのか？

- 1 : 教員と講義の事をよく知らない
⇒学生のカリキュラム/シラバスの把握
- 2 : 講義と図書館のガイダンスの関係性のなさ
⇒教員との連携
- 3 : 学生へのフォローアップの不在
⇒サポートデスクの設立

課題と解決

○ 1・2の解決策

従来から関係のある教員との連携の強化



新規教員の開拓

教務担当との連携によりシラバスの内容を入手

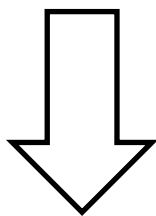
シラバスの内容を調査し、
リテラシー教育/アカデミックライティング関係の講義を発見

上記該当講義担当教員への働きかけ

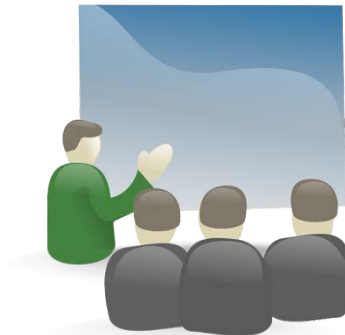
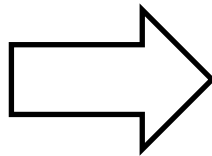
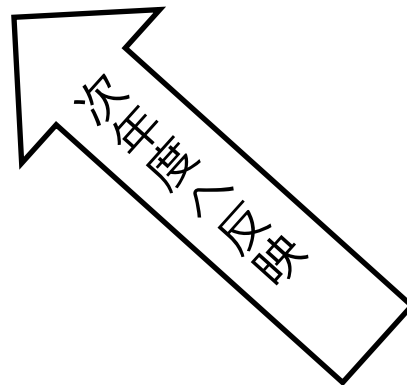
課題と解決



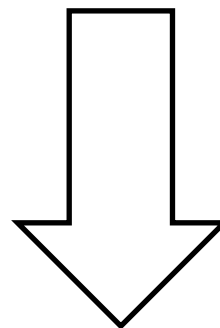
教務担当よりシラバスを入手



シラバス内調査
該当講義 / 教員の洗い出し



図書館員による
情報リテラシー教育



教員

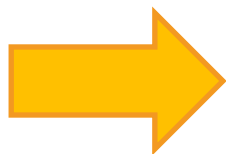
図書館員

教員の訪問/打診

○課題 3 の解決策

学修サポートデスクの設置

学生目線でのサポート
図書館内のアクセスしやすい場所に常設



学生に寄り添った支援

○課題 3 の解決策

<TA(大学院生)の人選>

- 教員の推薦
- ライティング・研究方法論等の授業単位取得者

<運用案>

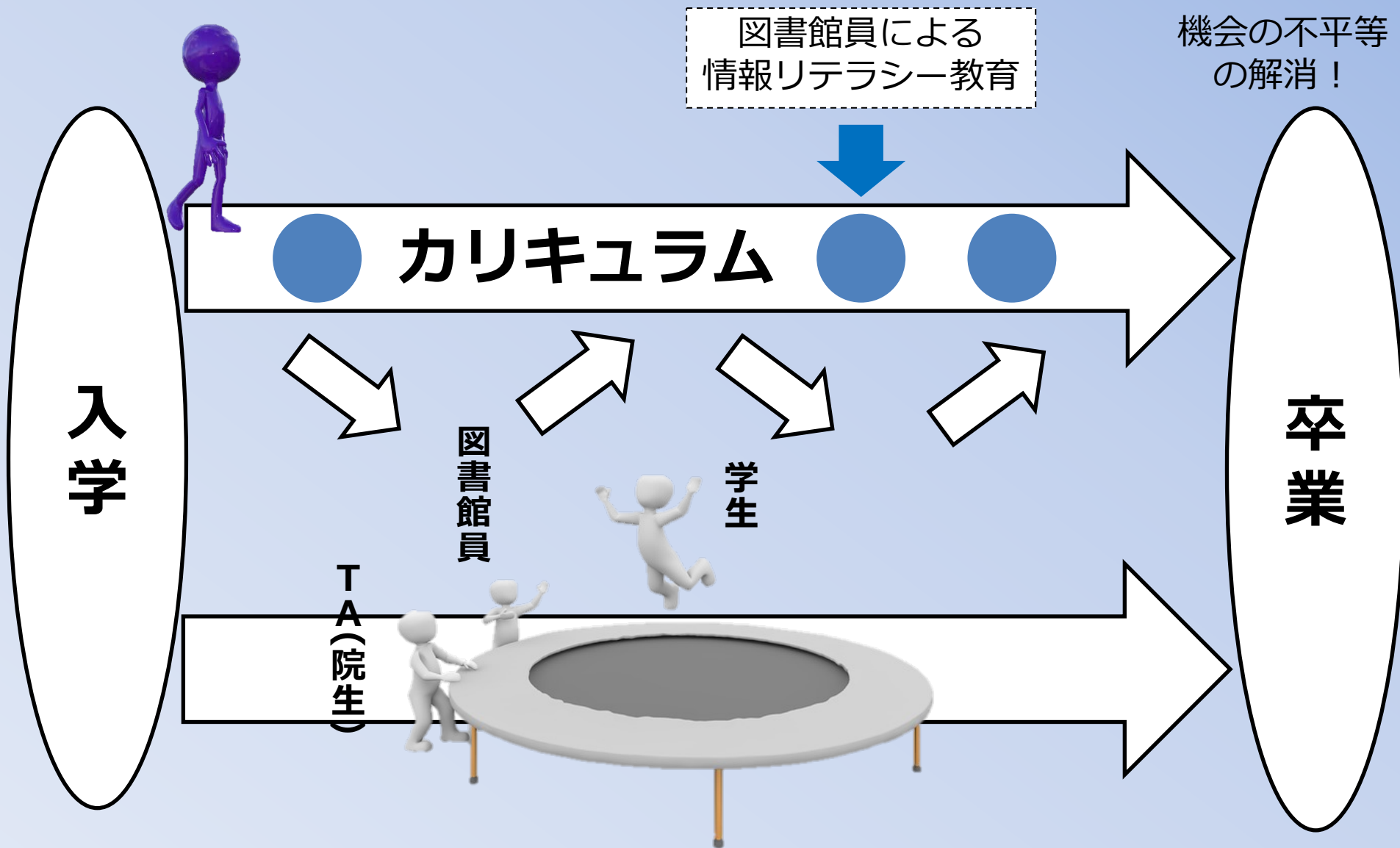
- マニュアルの策定
- 必要に応じて、図書館職員／教員へ
- TAのシフト管理

<フィードバック体制の構築>

- 対応内容・結果は、図書館・教員と共有
→講義内容へ反映させる



提案



ロードマップ

年月	H29.1	H29.3	H29.4	H29.7	H29.後期
教員との連携	シラバスの受け取り (教務)	シラバスの分析と 教員の洗い出し	初年次 セミナー	教員との交渉・ 事前打ち合わせ	図書館職員による 授業内ガイダンス
サポート デスク			教員との話し合いの中 での院生の推薦/選定		TA研修 →次年度よりSD開始

初年度は一部の講義で実施し、成果をまとめて教授会などでアピール&協力教員を拡大！！！！

教員と職員が「面」になって、
学生の情報リテラシー育成にあたり、
情報リテラシーを身に付けた学生を
社会へ送り出すことを目指す。